

ぶらり行善寺

塚田 實

コロナ禍での運動不足を避けるため、毎日散歩するよう心掛けている。普段は季節の微妙な変化を楽しみながら、駒沢公園を散歩する。しかし週末になると人が増え、かなり密の状態になるので、最近は近傍の神社仏閣を巡ることが多くなった。

そんな折、偶々テレビを見ていたら、舞の海の『ぶらり途中下車の旅』で二子玉川から永田町までの田園都市線・半蔵門線沿線を紹介していた。出だしは二子玉川の行善寺だった。昔から玉川高島屋にはよく行っていたが、線路を挟んで反対側にある行善寺は訪れたことがなかった。さっそくぶらり出かけることにした。

ショッピングセンターを抜けて武蔵野崖線の麓に着くと、大山道の一部だった行善寺坂がある。急勾配の道を登り、行火坂の石柱を右に見て、更に行くとお寺の近くに瀬田貝塚跡の標識がある。縄文時代には海が近くまで迫っていたことが想像される。

行善寺は永祿年間（一五五八〜六九）に創建された浄土宗のお寺で、何回か火災を被り、一九六四年に主な建物は鉄筋コンクリート造りで新築された。本尊は鎌倉期に作られた阿弥陀如来坐像だ。境内の猫塚は、かつて多摩川で鮎漁が行われて花街が盛んだった頃に、三味線を作るために皮を取られた猫の供養として作られ、当時料亭街の中にあつたものを、後に境内に移した。

本堂横に「行善寺八景」の石柱があり、奥に進むと眼の前が急に開ける。玉川高島屋など近代的建物の向こうには、霞がかつた北関東の山々が展開し、秩父山地から大山など丹沢の山並みが連なる。天気が良いと富士山も見えるらしい。

八景には『二子の帰帆』や『岡本の紅葉』などがある。多摩川に渡しがあつたことが偲ばれる。岡本の紅葉は、以前岡本に住んでいたとき、散歩で静嘉堂文庫裏の紅葉を一人楽しんでいたので、その頃のことを懐かしく思い出した。

近傍での新たな発見は嬉しかった。他にもまだまだ知らないところが沢山あるのだろう。いつまでも好奇心を失わないようにしよう。